

## 第 19 回全国代表大会が開催されました

岡山県上海事務所

中国共産党第 19 回全国代表大会が 10 月 18 日から 10 月 25 日まで開催され、今回も全会一致で習近平氏が中央委員会総書記に選出されました。本レポートでは今大会で報告された内容について簡単にご紹介したいと思います。

大会では、経済面において「過去 5 年において、世界経済が回復力に乏しい中、中国共産党は革新的な発展理念を堅持し、発展モデルの転換に力を入れ、困難を乗り越えて、進んで新しいことに取り組み、多大な成果を収めた。国内総生産（GDP）が 80 兆元に増え、世界の経済成長への寄与率は 30%を超えた。経済構造の不断の合理化が続き、デジタル経済などの新興産業が大いに発展した。農業現代化が着実に推し進められたと同時に、『一帯一路』（シルクロード経済ベルトと 21 世紀海上シルクロード）建設においても著しい成果があった。宇宙実験室『天宮』、有人深海調査艇『蛟竜』、球面電波望遠鏡『天眼（FAST）』、暗黒物質粒子探査衛星『悟空』、量子通信衛星『墨子』、大型航空機など大きな科学技術成果が相次いでデビューを飾った。また、南中国海の島嶼建設が積極的に推し進められた。さらに、対外貿易・対外投資・外貨準備の面では世界の上位をキープした」とし、「中国共産党は、人民を中心とする発展思想を貫いてきた。これまでの 5 年間で、

貧困脱却の堅塁攻略戦には決定的な進展があり、全国で 6000 万人余りの貧困人口が着実に貧困から脱却し、一年当たりの貧困脱却者は 1000 万人以上に上り、貧困率は 10.2%から 4%以下にまで下がった」と指摘しました。

また『新時代の中国の特色ある社会主義』思想が初公開され、「この思想は、わが党が全く新しい視点に立って共産党の執政法則、社会主義の建設法則、人類社会の発展法則に対する認識を深め、まとめたものである。2020 年までの小康社会（いくらかゆとりのある社会）の建設目標を踏まえ、今世紀の半ばに、中国を富強・民主・文明・調和・美しい社会主義の、近代的な強国に建設していく目標を提出した」と述べています。2018 年には改革開放 40 周年を迎え、2019 年に中華人民共和国成立 70 周年を迎えます。2020 年には小康社会を全面的に完成させるとし、2021 年に中国共産党成立 100 周年を迎えます。そして 2035 年までに社会主義現代化を実現させると計画しています。

次回 20 回大会までの 5 年は記念式典が目白押しとなり、また様々な制度の改正が考えられます。例としては「中国は市場参入ネガティブリスト制度を全面的に実施し、統一市場と公平な競争を妨げる様々な規定や慣行を整理・廃止し、民間

企業の発展を支援し、各種の市場主体の活力を引き出す。行政の独占をうち破り、独占市場を防止し、サービス業の参入規制を緩和させる」と表明しています。これは外資企業にも適応されるのであれば今後のビジネスチャンスは拡大しますが、リスクとしては環境規制の強化（2018年度から環境保護税導入）及び最低賃金の継続的上昇（小康社会建設目標）等、税金や人件費等の継続的上昇が予想されます。

今後の中国の動向に引き続き注視していきますので、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。